

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和 5年 2月 ●日

事業所名： おひさま園

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・利用児に応じて、パーティションで仕切りながら、子ども達が落ち着いて過ごすことが出来るように工夫している ・学習、給食、クールダウンできるスペースなど、用途に応じて多目的室を使い落ち着いて安全に過ごせるスペースを確保している	・利用者が、増えてきて、自由遊びの時間はもう少し広がった方がいいのと感じることがある ・設定活動は、2つのグループに分かれていて、工夫が見られ、スペースは確保されていると思います	・保育室は2部屋を広げることができる作りになっているので、利用人数に応じて部屋を広げ安全に過ごせるようにする
	2 職員の適切な配置	・適切な配置をしている	(ご意見なし)	・適切な配置を継続する
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・子どもに合わせて、見通しが持てるように環境を設定したり、絵カードや写真を利用して分かりやすくしている	(ご意見なし)	・スケジュールは写真や絵カードを使い、見通しが持てるように準備し、園外に行く時は行先を写真で知らせ、今後も利用児の様子に応じて設備を整える
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日の掃除をしっかりと行っている ・室内へ入る時や昼食、おやつ前には必ず手を洗い、消毒をしている ・玩具の消毒も定期的に行っている	(ご意見なし)	・日々の掃除を徹底して、玩具の消毒も行っていく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・毎日、朝礼を行って、活動の流れを確認し、日々の反省もしっかり行い、終礼を持つことで他のクラスのこと全職員が把握できるようにしている ・個別に支援を必要とする子どもについては、カンファレンスを行い支援についてスタッフ間で統一するようにしている		・打ち合わせや反省を日々しっかり行い、日誌を丁寧に記入し、次の日の活動に反省を活かしていく
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・他事業所の職員と合同カンファレンスを行い、意見交換の場を設けている		・今後、第三者による評価を受けることが望ましいと考えている
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・外部研修は積極的に受講する機会を設け、受講した職員は内部研修にて報告する機会を設け質の向上を図っている		・外部研修を受講し、内部研修で報告する機会を作り、計画的に内部研修を企画し職員の資質を向上できるよう努める

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	(ご意見なし)	・アセスメントを行い、保護者様の思い、利用者の思いを反映しながら、職員間で話し合い計画書を作成していく
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成		・子ども一人一人の発達の特性を掴むため、アセスメントを行い職員間で話しながら計画に取り入れていく
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	(ご意見なし)	・保護者様に分かりやすい計画書を作成するように心掛けている
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	(ご意見なし)	・子ども一人一人の目標や課題を職員が把握して、共通認識を持って日々の療育に取り組んでいく
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	(ご意見なし)	・園会議やクラス会議を持ち、チーム全体でプログラムを考えていく
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援		・長期休みの前には、次回の利用日の確認をしたり、病気で休みの場合は、子どもの具合を尋ねたりする ・休み明けには、家での様子も確認して、保護者様の困り感も把握するようにする
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施		・人気のプログラムは固定として続けていき、計画を立ててマンネリ化したプログラムにならないように情報を収集し取り入れていく
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・前日には支援内容や役割分担を記載した日案を作成し、当日は職員間で朝礼を行い、朝の打ち合わせをしている	・打ち合わせを十分に行い、支援内容や役割分担の確認を毎朝している
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・各クラスで反省を行い、職員間で共有できるように終礼でクラスの反省や様子を伝えあっている ・支援方法について不安や疑問が生じた場合は職員で意見交換をしながら情報共有をし問題解決をしている	・反省会を持ち、よりよい支援ができるように職員間で情報を共有していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・活動項目ごとに細かく記録し、支援してよかったことや改善点等も共有できるように、担当を決めずに多角的視点で記録をするようにしている		・細かいことでも記録をしっかりと書くようにし、よりよい支援ができるように記録していく
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・保護者様とモニタリングの面談を持ち、現状の報告をして保護者様のニーズを再確認している ・支援目標に対し、達成できているか細かくアセスメントし計画の見直しに活かしている	・定期的に会議を持ち、計画書の見直しをしている
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	・児童管理責任者や担当が積極的に担当者会議に参加するようにして、利用児の様子を見ながら、必要に応じて会議を持つように提案している	・積極的に担当者会議に参加し、必要に応じて会議をしている
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・該当者なし	・利用児なし
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・該当者なし	・利用児なし
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・送迎でお迎えに行った時には、子どもの様子を探るようしたり、連携会議を持つようにして、支援内容を共有している ・サポートブックの作成を積極的に取り組んでいる	・年間を通して、連携を取りながら情報共有し、特に就学児に対しては円滑な移行ができるように必要書類を作成し、連携会議を数回設定するようしていく
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	・就学前は保護者様との面談を多く持ち、小学校との話し合いも行っている	・就学前の児童は面談を多く持つようにして、必要に応じて小学校との面談もするようになっている
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・研修には、積極的に参加するように勧めている	・研修には、積極的な参加を勧めている

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・新型コロナウイルスの影響もあり、現在交流は行っていないが、終息後に考えていく	・コロナのこともあるため、地域との交流は、行っていないが、今後考えていく	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・地域の子ども達と保護者様が遊びに来る日を月に2回設定している	・今後も地域の子どもたちと保護者様が気軽に遊べる場を提供できるよう継続していく	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時にしっかりと説明している	(ご意見なし)	・契約時に説明し、ご理解頂くまで丁寧に説明していく
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・支援内容について具体的に説明し、絵カードなど道具を使用する場合は実物をお見せして丁寧に説明を行っている	(ご意見なし)	・面談を持ち実際の様子をお話しながら、丁寧に説明していく
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・子育てについての座談会(おひさま会、ママ会)、ペアレントトレーニング(おひさま講座)を行っている	(ご意見なし)	・おひさま会(毎月)、ママ会(母子保育の際)、おひさま講座(年度)を継続して行っていく
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・日々、サービス提供記録や送迎時に状況をお伝えしたり、必要な場合は電話や面談で話をするようにしている	(ご意見なし)	・日々の子どもの様子をサービス提供記録で知らせたり、送迎時に話をするようにしている
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・保護者様から相談があった時には、現場のスタッフや児童発達管理責任者が検討して相談・助言等の対応をしている	(ご意見なし)	・日頃から良好な関係を築けるよう努力し、保護者様より相談してもらえよう今後とも努力していく
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・母子保育や保護者会を定期的実施し、幅広い年齢の子どもを持つ保護者様が集まり情報交換ができています	・コミュニケーション能力が低く、上手く言葉が出て来ない事がありますが、フォローして頂いています	・保護者様の参加しやすい日程を設定し、参加して頂けるように内容の充実を図り参加の呼びかけも丁寧にしていく
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・マニュアルを作成し、迅速に児童発達管理責任者が対応する ・保護者様の思いを十分に聞くようにして、その誠心誠意対応するように心がけている	(ご意見なし)	・苦情に対して迅速丁寧に対応するよう努力する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・写真や絵カードを活用しながら、分かりやすく伝えるようにしている ・電話や連絡帳などを利用している	(ご意見なし)	・写真や絵カードを用いて分かりやすく知らせている
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・ホームページのブログの更新や保護者様へのお便りで知らせている	(ご意見なし)	・ホームページの更新を定期的に行い、毎月おひさま便りを配布している
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	・児童のことは、事業所内で話をするようにし、書類を破棄するときも個人情報の書いているものは、必ずシュレッダーにかけて捨てるようにしている ・ホームページは、利用者、保護者様に確認をとってから、写真を掲載するようにしている	(ご意見なし)	・同意をもらい取り扱っている
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・各種マニュアルを事業所に設置し、職員は目を通している	(ご意見なし)	・マニュアルの作成をしている
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・定期的に避難訓練を行い、消防署にてAEDの研修にも積極的に参加している ・ハザードマップや避難袋の準備も行っている	(ご意見なし)	・定期的に避難訓練を行い、避難袋なども定期的に確認し、いざという時に行動できるように備えていく
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・セルフチェック表を付けて管理責任者に提出し、意識付けを行っている ・虐待防止の研修を受け、後日内部研修として復命を行っている		・内部研修に虐待防止の内容を組み入れてより深い知識を取り入れていく ・毎月の会議において虐待について確認する
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体拘束は、行っていない ・離席のある子どもに座るよう促す時の対応では、保護者様に説明して理解を得ている		・身体拘束は、基本的に行っていない。 ・離席のある子どもを座るよう促すときには、保護者様への説明をするようにしている
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・保護者様からの聞き取りと調査票への記載をしている		・保護者様から聞き取り、調査票への記載をしている
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・ヒヤリハットの事例が発生した時は報告書を作成し、その日の終礼などで報告をし、早期に対策を検討し共有に努めている		・職員間で共有して、同じことが起こらないように改善点を明確にしていく